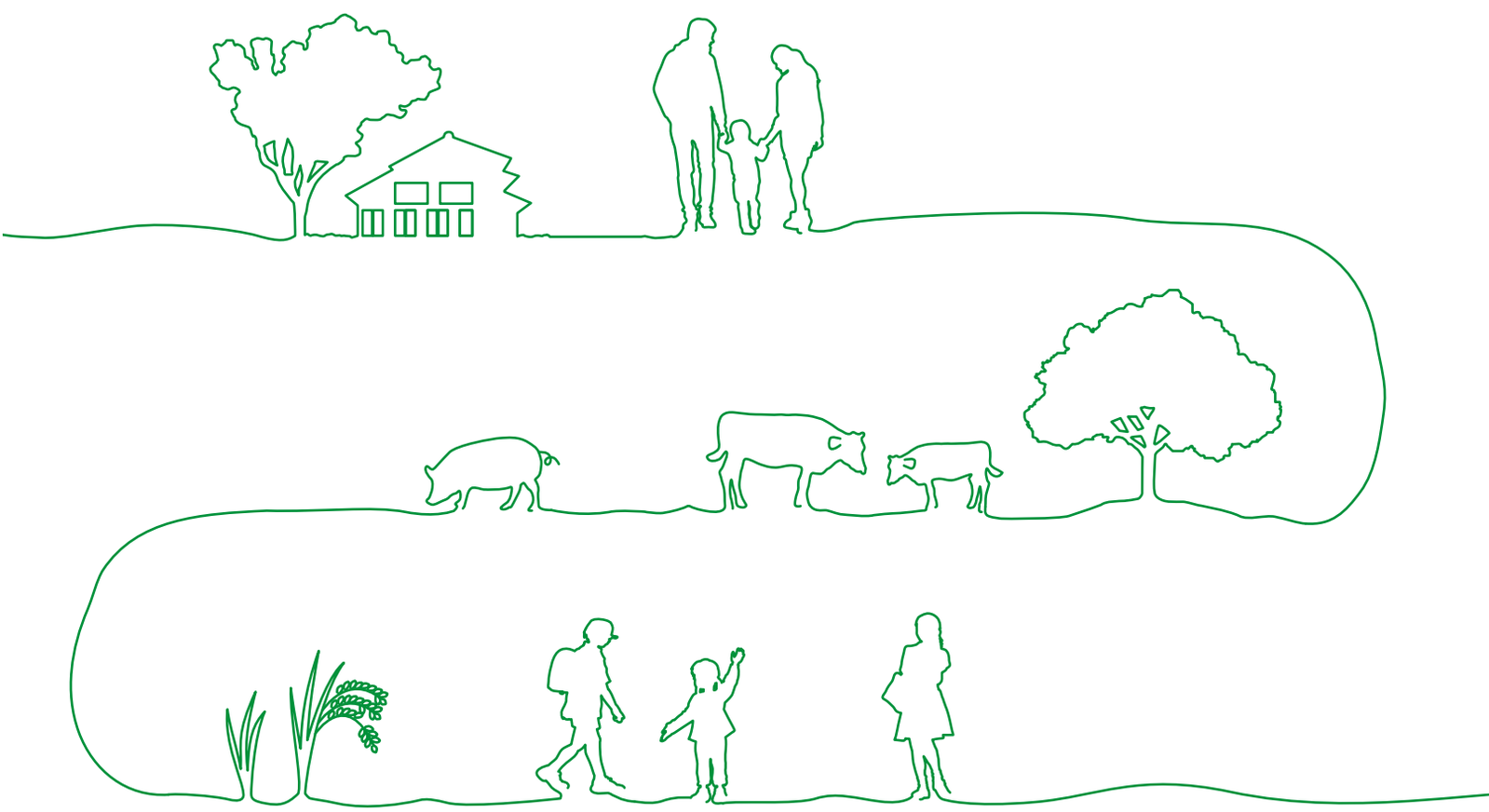
pal*system

2018
TSUNAGU

生協・環境・社会活動報告書



生活協同組合パルシステム東京

生活協同組合 パルシステム東京は
食を中心に「安全・安心なくらし」を組合員に　お届けする生協です。

パルシステム東京の理念

「食べもの」「地球環境」「人」を大切にした「社会」をつくります

1. 食べものの安全性にこだわり、生活者のくらしと健康を守ります
2. 日本の食料自給力を強めるため、生産者とともに産直運動を発展させます
3. 安全・品質・価格・産直・環境面でもっと優れた「商品」をつくります
4. 女性の社会参加を応援します
5. 平和、地球環境、福祉、たすけあいの活動を広げ、地域社会に貢献していきます

2020ビジョン

ともに　つくる　くらしと地域

パルシステム東京は、生活協同組合として、組合員のくらしを多様に創造し、
一人ひとりが輝いているコミュニティづくりと持続可能な資源循環型社会づくりをすすめます

くらし

❶組合員の多様なくらしを、「安全」「安心」な商品とサービスで支えている
❷組合員の活動が多彩に拡がり、多様な参加が実現している
❸すべての事業と活動に、「福祉」の視点を貫いている

地　域

❶地域の活性化と調和につながる事業と活動をつくりだしている
❷地域のNPOや行政等と連携し、誰もが安心して住み続けることのできる地域をつくりだしている
❸地域性をいかした活動に、誰もがいきいきと取り組むことができる環境をつくりだしている

社　会

❶産直運動で日本の農林水産業を守り、活力のある地域をうみだしている
❷平和で公正な社会づくりに向けた運動をつくりだしている
❸資源循環型社会づくりに、事業と運動の両面から取り組んでいる

編集方針

生活協同組合パルシステム東京は、「食べもの」「地球環境」「人」を大切にした「社会」の実現に向けた活動をステークホルダーの皆様にご理解いただくために、毎年「TSUNAGU 生協・環境・社会活動報告書」を発行しています。
本冊子では、「パルシステム事業」「福祉事業」「電力事業」に関する最新のデータと取り組みを特集として取りまとめました。また、継続的に行っている「食べもの」「地球環境」「人」に関する活動の中から主なものを報告しています。
なお、巻末特集としては「SDGs」の視点からパルシステム東京の事業と活動に寄せられる期待について解説を加えました。
多くのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションの基点となるよう、事業の特徴を踏まえた報告を心がけています。

ステークホルダー

組合員の皆様、お取引先様、行政や諸団体など
ともに取り組みを進める皆様、および職員

対象期間

2017年4月1日～2018年3月31日
※特集の一部では、直近の取り組みについても対象としています。

対象範囲

パルシステム東京
（本部事務所／配送センター／福祉事業所／保育園）

アンケートご協力のお願い

本冊子の内容に関する
ご意見、ご要望、お問い合わせは
palsystem-tokyo@pal.or.jp
もしくは右記QRコードからお寄せください。

INDEX

パルシステム東京の理念・2020ビジョン…… 2
編集方針…… 3

パルシステム東京について
ごあいさつ…… 4
組織概要…… 5

特集
1.くらしに寄り添うパルシステム事業…… 6
2.共生ケアにも取り組む福祉事業…… 8
3.パルシステムでんきと発電産地…… 10

「食」の取り組み…… 12
1.安全な「食」を求めて…… 13
2.商品の価値を伝える…… 16
3.食料自給率の向上をめざして…… 18

「環境」の取り組み…… 20
1.地球温暖化を防ぐために…… 21
2.一人ひとりのくらし方を見直す…… 23
3.身近な自然を守る…… 26

「人」の取り組み…… 28
1.地域とつながる…… 29
2.平和なくらしを守るために…… 32
3.被災地の復興を支援する…… 34

働く環境づくり・人材育成…… 36
リスクマネジメント…… 38

巻末特集
「ジャパンSDGsアワード」受賞…… 39

ごあいさつ

人と人のつながりで社会変化を

2017年度は、産地での大雨被害や首都圏の降雪被害など、気候変動の影響に苦労した年でしたが、組織全体で商品活動に取り組んだ結果、パルシステム事業は好調に伸長することができました。また、保育事業を含む福祉事業も順調に伸びてきています。

今年2018年はカール・マルクス生誕200年ということで、マルクス研究がブームのようです。マルクスは未来社会論の中で「アソシエーション」という協同組合的社会を提案しています。今、国連ではSDGs推進の担い手として協同組合に期待が寄せられていますが、100年以上前にこれからの経済として提案されていたことになります。また、さらに遡ってアダム・スミスの著書「道徳感情論」でも、協同のもととなる「共感」の必要性が説かれています。

自然や人から搾取して資本を蓄積する経済のあり方を見直し、持続可能な地球、持続可能なくらしを求める動きが世界中で広がってきています。そのための共通尺度と目標を持ち、全員参加で社会を変えていこうという動きがSDGsであり、私たち生協パルシステムがずっと行ってきたことです。人と人とをつなぐ接着剤と新たな価値をつくる触媒になり、つながりをさらに広げて社会を変えていきたいと思っています。

生活協同組合 パルシステム東京
理事長　野々山　理恵子

生活協同組合とは

パルシステム東京は生活協同組合です。生活協同組合（以下、生協）は、組合員の生活の文化的・経済的改善向上を図ることを目的に設立された組織です。
一般の企業と違い、組合員自らが出資し、自分たちのくらし全般をよくしていくためにそれぞれが思いを寄せ合いながら組織の方針を決め、それに基づいた商品・サービスを利用します。組合員一人ひとりが、生協という組織の「主体」なのです。

組織概要

名　　称	生活協同組合パルシステム東京	
設　　立	1970年4月1日	
役　　員	理事長	野々山　理恵子
	専務理事	辻　正一
	常務理事	佐藤　健二
	業務執行理事	長屋　豊
	業務執行理事	戸井田　直人
事業エリア	東京都全域（島嶼を除く）	
	本部所在地	東京都新宿区
	配送センター	17ヵ所
	福祉事業所	14ヵ所
	保育園	2ヵ所
	※拠点数は2018年4月時点	
職　員　数	1,810人（定時職員含む）	
組合員数	47万8,796人	
総事業高	742億2,973万円	
出　資　金	178億6,421万円	
	※数値は2018年3月末時点	

パルシステムグループ

商品や環境政策などについて考え方を共有している10(※)生協が、パルシステムグループを構成しています。パルシステム東京はこのグループの中で、総事業高と組合員数ともに最大規模の生協です。
※利用事業会員を含めると13生協

●パルシステム連合会は
商品開発、仕入れ、商品管理、物流、情報システムを担当

●それぞれの生協は
商品やサービスの供給、福祉事業、組合員活動の支援ほかを担当

pal*system
パルシステム生活協同組合連合会
パルシステムグループ
会員生協 約152万世帯

- パルシステム東京
- パルシステム神奈川ゆめコープ
- パルシステム千葉
- パルシステム埼玉
- パルシステム茨城
- パルシステム山梨
- パルシステム群馬
- パルシステム福島
- パルシステム静岡
- 新潟ときめき生協

特集1 くらしに寄り添うパルシステム事業

食の安全・環境に配慮した商品をお届けし、多様なライフスタイルのニーズにも対応

組合員の想いに応えて進化し続けます

パルシステム東京は、食品を中心に、石けん商品などの生活雑貨、住まい関連、共済（保険）、旅行など、幅広いサービスを行っています。
注文された商品は、個人宅やグループ（共同購入）へ配達。全国の生協に先駆けて個人宅配を始め、ライフスタイルに合わせた注文方法を用意するなど、組合員のくらしに役立つ生協をめざし、挑戦を続けています。

組合員の声をもとに改善

アンケート・モニター企画や「ひとことメール」など、商品や事業に関する問い合わせや意見を集約して、商品やサービスの改善につなげています。また、2011年から定点調査として行っているパルシステム東京の組合員アンケート「あなたの声をパルシステム東京へ!」では、新サービスや制度の認知度・満足度調査などを行い、次年度の方針案づくりに反映させています。

一人ひとりのニーズに対応するサービス

タベソダ

加入から注文までアプリで完結するサービス。カタログはなく、注文のあった週のみ配達します。

指定便

組合員が希望する日時に、最短で注文3日後にお届けする配送システム。不在時に受け取れない方に好評です。

きなりセレクト

直接カタログに注文を書き込む、注文用紙一体型カタログ。文字や写真が大きく見やすいと、特に高齢者の利用が伸びています。

アレルゲンアラート

インターネットやアプリで注文する際、あらかじめ登録したアレルゲンを含む商品を選ぶとアラートでお知らせするシステム。食物アレルギーに配慮したくらしをサポートします。

時短ニーズに応える商品・サービス

カット済み野菜や肉・魚、タレがセットになった「パルシステムお料理セット」を2014年から販売。2017年には3日分の夕食の材料とレシピをまとめてお届けする「3日分の時短ごはんセット」をインターネット注文限定でリリース。1クリックで簡単に注文でき、献立を考える手間が省けるだけでなく、栄養士や子育て中の職員がリアルな目線で考えた実用的なレシピで時短のコツも学べると好評です。また、2018年10月以降はカタログでも展開する予定です。

商品を届けるだけではない配達担当をめざして

「商品担当」を全センターで養成

17カ所ある配送センターの職員（委託協力会社社員を含む）から23名の「商品担当」を選抜し、パルシステム主力部門である「農産」「畜産」「米穀」商品の利用促進・定着を目的として活動しました。産地とパルシステム青果部門の子会社（株）ジーピーエスの協力のもとミニトマトと人参のサンプル配付も行い、連動するアンケートやレシピを作成するなど、配達担当ならではの創意工夫で特色ある取り組みを展開しました。

産直産地「沃土会（埼玉県深谷市）」での研修の様子（10/13）

配達担当4つのこころえ

1. 私たち配達担当が窓口となります
2. 商品を大切にお届けします
3. 組合員のみなさんとの約束を守ります
4. 地域の配達担当として心配りを大事にします

DATAで見るパルシステム事業

配送トラック台数

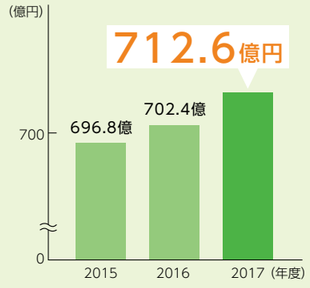
約730台

（17センター／委託含む）

パルシステム商品の「安全性」に魅力を感じる

［2017年度 組合員アンケートより］

パルシステム供給高



陽だまり

ぱる★キッズ pal-system

特集2 共生ケアにも取り組む福祉事業

誰もが安心して暮らせる社会をめざして 生協の視点を活かした福祉事業を展開

パルシステムならではの福祉のカタチ

パルシステム東京では、2012年6月に制定した「パルシステム東京福祉政策」にもとづき、誰もが安心して、その人らしいくらしを続けていくことができる地域づくりをめざして、福祉事業所「陽だまり」を都内14カ所で展開しています。
厨房を併設しているデイサービスセンター、グループホームではパルシステム食材を使った食事提供を広げるなど、生協らしさを活かしたサービスが喜ばれています。
また、府中市・足立区の2カ所では今後の福祉のモデル事業となる「複合型福祉施設」を開設し、保育園「ぱる★キッズ」を併設。幼児から高齢者までの「共生ケア」の充実を図っています。

足立福祉棟を2018年4月にOPEN

足立センターの配送センター敷地内を活用して、「ぱる★キッズ足立」「デイサービスセンター足立陽だまり」「パルひろば足立」を併設する「足立福祉棟」を開設。「ぱる★キッズ足立」は2園目となる直営保育園で、東京都認証保育所としてスタート。

足立福祉棟の施設概要

1F
「ぱる★キッズ足立」
食育・木育・遊育を保育理念に取り入れ、たべる喜びや作る人への感謝の気持ち、木のふれあいから自然を大切にする心、遊びと人との関わりを通して豊かな感性と思いやりの心を育んでいきます。

2F
「デイサービスセンター足立陽だまり」
ご利用者・ご家族の意向・要望を大切にした目標や支援方法に沿って、安全に楽しく過ごしていただくことで、ご自宅の次に安心できる場所となることをめざしています。

3F
「パルひろば足立」(地域交流スペース)
地域交流の拠点としてキッズスペースやキッチンを備え付け、多世代にわたる交流が自然と生まれる地域に開かれた場をめざします。

「ぱる★キッズ府中」東京都認証保育所に

2014年に無認可保育園として産声を上げた「ぱる★キッズ府中」は、これまでの取り組み内容が評価され、2017年10月より東京都認証保育所A型に移行。行政からの運営費補助を受けることで、保育士等への処遇改善や手厚い基準での保育、保育料金の軽減などが実現しました。
また、職員の「木育インストラクター」資格取得を促進し、2018年5月には「ウッドスタート宣言園」に。スキルと経験を蓄積し、保育理念として掲げる「食育」「木育」「遊育」の質を向上していきます。

東京都おもちゃ美術館より「ウッドスタート宣言園」として認定証を授与された「ぱる★キッズ府中」

高齢者のくらしと安心を支える見守り活動

行政との見守り協定締結

毎週同じ曜日・時間帯に同じ配達担当が訪問する宅配事業の特徴を活かし、自治体が進める見守り活動に協力しています。2018年3月末までに東京都および都内52の行政区と見守り協定を締結し、地域包括支援センターおよび行政の関係各課と連携して、早期の安否確認、対応などに貢献しています。

中野区での「高齢者等の見守りに関する協定書」締結式（3/19）

見守り安心サービス

配達時に在宅状況や商品お届けの有無について、遠方にお住まいのご家族など事前に登録されたメール配信先へお知らせする「安心メールサービス」を無料で提供。
万が一、見守り対象者が倒れてしまっているような緊急時には、救急車の手配、警察への通報を行います。緊急時や異変を察知した際には、登録された方にも電話連絡をします。

DATAで見る福祉事業

パルシステム東京の「福祉事業」に期待したいもの(2つまで)

高齢者介護事業	49.2%
保育園など子育て事業	46.2%
障がい者福祉	18.6%

[2017年度 組合員アンケートより]

福祉事業収入

見守り協定

東京都および都内
52行政区と締結

特集3 パルシステムでんきと発電産地

発電所数は43カ所に拡大!
再生可能エネルギーの普及を推進します

高いFIT電気比率を誇る「パルシステムでんき」

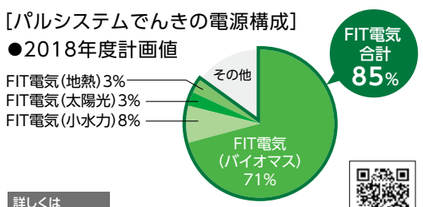
パルシステム東京は全国の生協に先駆けて2013年4月に子会社(株)うなかみの大地で新電力事業をスタート(※)。生物や森林、農地や水資源を損なうことの少ないFIT電気(再生可能エネルギー)を中心にお届けするために、産直産地や地域と連携して電力調達を拡大しています。

※2016年3月、パルシステムグループ子会社の(株)パルシステム電力へ移譲、同年10月から組合員への供給を開始。

料金プランを改善

毎月の電気料金には「発電産地応援金」(税別100円)が組み込まれ、再エネ発電所のさらなる普及促進などのために電気の生産者に届けられます。2017年12月には、この応援金を含めて大手電力会社の従量電灯B・C料金と同額となるように料金プランを改善し、口座振替割引(税別50円)も開始しました。

[パルシステムでんきの電源構成]
●2018年度計画値



詳しくはホームページへ http://www.pal.or.jp/denki/

再生可能エネルギーによる発電

小水力発電 8カ所

田んぼへ注がれる用水路の落差を利用してプロペラ水車で発電。野川土地改良区は年間を通じて農業用水を利用できるため、通年で発電可能。

野川土地改良区　野川小水力発電所(山形県長井市)

バイオマス発電 3カ所

年間5,000万羽の鶏の飼育で、毎日400t発生する鶏ふんを有効活用して発電。燃焼後の灰も肥料原料として循環させている。

十文字チキンカンパニー　バイオマス発電所(岩手県九戸郡軽米町)

太陽光発電 31カ所

パルシステム千葉と連携し、ほ場の真ん中にソーラーシェアリングを設置。作物を育てながら発電する仕組みは、生協として全国で初めての取り組み。

佐原農産物供給センター(千葉県香取市)

地熱発電 1カ所

温泉の熱を使って水よりも沸点の低い媒体を気化させ、タービンを回して発電。震災と原発事故で甚大な被害を受けた土湯温泉の復興をめざし、地元団体が出資して誕生。

(株)元気アップつちゆ 地熱発電(福島県福島市)

食べものを選ぶように電気も選ぶ時代に

「電気の選び方」を普及

パルシステムでんき推進のため、さまざまな広報施策やWEB契約システムの開発を進めると同時に、学習会やイベントでのおすすめ活動も積極的に実施しました。

2017年度は都内7会場で「エコな電気の選び方」と題して電力自由化入門講座を開催し、パルシステムでんきをまだ契約していない方を対象に、地球温暖化、電力自由化の仕組みや再エネの特徴、他社との違いなど、消費者視点でわかりやすく解説しました。

Report

センターまつりで発電体験

立川、練馬などで開催された「センターまつり」で、「自転車ジオラマ発電体験コーナー」をブース出展。子どもだけでなく大人もいっしょに汗を流し、電気を生み出す苦労から、省エネや発電に関する関心を引き出しました。

※「センターまつり」とは、一部の配送センター敷地内で組合員や地域の方を対象に休日開催するイベント。生産者やメーカーとの交流と試食を楽しみながら、パルシステム商品やパルシステム東京の取り組みを知っていただく機会となっています。

組合員からのメッセージ

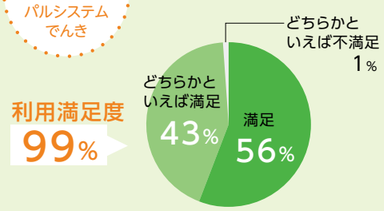
親が転勤族だったので、小学校時代を長崎で過ごしました。原爆が投下された長崎では平和教育が盛んで、そのなかで育ったせいか脱原発はごくあたり前のこと。自然からできた電力を選ぶこともふつうの流れでした。

変更手続きは、携帯電話を替えるよりずっと簡単でスピーディ！子どもたちに胸をはって、電力をつなぎたいです。

パルシステム東京組合員
古川久美子さん(小平市)

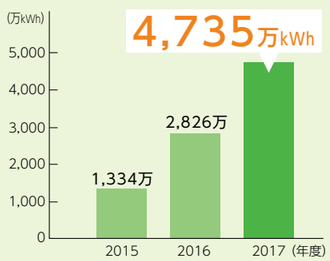
DATAで見るパルシステムでんき

「パルシステムでんき」利用満足度



[(株)パルシステム電力調べ]

FIT電気年間発電量



発電所数 14カ所 33カ所 43カ所

電力自由化入門講座参加者数

のべ 112人
ほか職員向け学習会も多数開催

食べることは、生きること。
本物の味わいと安心を届けたい。

「食」の取り組み

1. 安全な「食」を求めて

安全・安心な農産物の生産に、農薬・化学肥料の使用削減と放射能対策は欠かせません。
パルシステムではそれぞれ独自の基準を設定し、見直しを続けてきました。
生産者とともに、より安全でおいしい産直農産物の生産に努めています。

農薬削減の取り組み

コア・フード、エコ・チャレンジ

パルシステムでは農薬と化学肥料の使用について独自の基準を定めています。
現在、検討を行っているエコ・チャレンジ基準見直しについての組合員論議に向けて、農薬や生産状況等を学ぶ学習会を3回開催しました。

エコ・チャレンジ基準見直しのための学習会

パルシステム独自の基準「コア・フード」「エコ・チャレンジ」

コア・フード
有機JAS認証を取得した「有機農産物」、またはそれに準ずると判断された農産物。化学合成農薬、化学肥料を使わない(※)、パルシステムのトップブランド
※有機JAS認証での使用可能資材を除く

エコ・チャレンジ
パルシステムが定める「削減目標農薬」や除草剤、土壌くん蒸剤を使わず、化学合成農薬と化学肥料を各都道府県が定めた慣行栽培基準の1/2以下に減らして栽培した農作物

Report

産直カフェ♪

東京に生産者を招き、産直産地ならではの取り組みやおいしさの秘密を聞きました。参加者からは、「生産者と直接お話しするのは初めてでした。普段食べているものを作っている方から、いろいろな工夫や努力していることを聞いて、とても身近に感じられました」「今日お聞きした話を家族や友人らに伝えたいです」などの感想が寄せられました。

- 全5回開催、のべ112人参加
- 産地：(有)白州森と水の里センター[卵]、宮北牧場[牛肉]、JAささかみ[米]、(有)ジョイファーム小田原[果樹]、農業組合法人グットファーム[野菜]

山梨県のきれいな天然水と有機飼料で育った鶏から生まれた卵を出荷する、(有)白州森と水の里センター(7/25)

パルシステムのトッププランド「コア・フード牛肉」の産直産地、合名会社宮北牧場代表は、「祖父の代からの伝統を大切にしながら、新しいことにチャレンジしています」と語る(9/15)

全国に先駆けてコア・フード米やエコチャレンジ米に取り組んできた、新潟県JAささかみ。パルシステム組合員との交流は40年続いている(10/24)

パルシステムの商品づくり

食品添加物削減

パルシステムでは食品添加物の使用について国の基準よりも厳しい独自基準を設けています。
また、独自基準で使用を認める物質でも、できるだけ使用しない、使用を減らすなど厳しく運用。安易に食品添加物に頼らず、素材を吟味し、できるだけ素材の良さを活かした製造法を取っています。

組合員の声に応えて「たんぱく加水分解物」不使用でリニューアルしたPB商品ポークウインナー

パルシステムの商品づくり **7つの約束**

1. 作り手と「顔の見える関係」を築き、信頼から生み出された商品をお届けします。
2. 食の基盤となる農を守るためにも国産を優先します。
3. 環境に配慮し、持続できる食生産のあり方を追求します。
4. 化学調味料不使用で、豊かな味覚を育みます。
5. 遺伝子組換えに「NO!」と言います。
6. 厳選した素材を使い、添加物にはできるだけ頼りません。
7. 組合員の声を反映させた商品づくりを大切にします。

組合員による開発協力商品

月1回集まってメーカー、パルシステム、組合員が協力して論議を重ね、組合員の“ほしい”を組合員がプロデュースする商品開発チーム。
2017年度はスタミナライスバーガーを開発しました。「原料、おいしさ、便利さ」のどれも妥協をせず、産直米・産直豚肉を使用しているからこそ、素材の味を生かした商品にしたいという想いに応えた商品ができました。

組合員が開発協力しました

2018年6月から新発売

2017年度商品開発チーム「チーム☆ガッツリ!」の皆さん

食の安全を求める他団体との連携

パルシステムでは遺伝子組み換え作物および食品に反対する立場から、遺伝子組み換え表示の拡充に向けて他団体と連携して取り組み、消費者の視点に立った見直しを求める意見書ならびに要望書を消費者庁などに提出しました。
また、種子法廃止によって多国籍企業による農業インフラの独占が懸念される中、2017年7月に発足した「日本の種子（たね）を守る会」へ団体加入。組合員に向けた種子法学習会を開催するほか、活動組合員を中心にリーフレットの配付や署名の呼びかけを行いました。

Report

種子法学習会 ー種子法廃止 タネがあぶない!ー

国会で十分な審議がなく、国民的な議論もないまま、2018年4月に廃止された主要農作物種子法。講師の「日本の種子（たね）を守る会」事務局アドバイザー、印鑰智哉さんは廃止後も安定的な種子生産ができるのか、稲作価格の高騰や品種の多様性が失われる、多国籍企業による種子独占など、深刻な弊害の可能性を指摘しました。

「種子の公共性と多様性を守る新しい法律が必要」と話す講師の印鑰さん（9/11、14）

厳しい独自基準で商品検査

パルシステムは自前の「商品検査センター」で、お届けする商品の農薬、放射能汚染、衛生指標菌や食中毒菌などを検査しています。検査結果はホームページなどで定期的に報告しています。

微生物検査
細菌検査によって食中毒の原因となる有害微生物や汚染の指標菌の検査を行い、安全性の確認や品質管理をしています。
●2017年度検査数 7,284件

理化学検査
農薬などの化学物質を検査する残留薬剤検査を中心にその他にもヒスタミン検査などを行って、安全性を確認しています。
●2017年度検査数 701件

放射能検査
放射能測定器2台で測定しています。乳幼児用食品の検出限界は1Bq/kgとして、より厳しく検査しています。
●2017年度検査数 3,748件

自前のアレルゲン検査を開始

小学校児童の約4.5%が何らかの食物アレルギーをもっている（平成25年文部科学省報告）といわれています。組合員が安心して利用できるよう、アレルゲン表示に間違いがないかを検査で確認しています。これまで外部委託だったアレルゲン検査を2017年度から自前でスタート。検査結果が早くわかるようになったため、緊急時の対応が迅速になり、検査数も向上しました。
●2017年度検査数 168件

2. 商品の価値を伝える

パルシステムは、商品を選ぶことで社会を変える取り組みを実践しています。
商品の価値を広めるため、生産者やメーカーを招く学習会や産地見学なども開催し、
組合員と作り手をつないでいます。

パルシステム東京が考える食育

「ともにつくり、ともに食べる～一人ひとりがつながり、いのちをはぐくみ、生きる力を高めます～」を目標として食育政策を定めています。
食育の取り組みをすべての組合員、そして地域へ、子どもから高齢者まで広げ、いのちの源である食を大切にすることや、自ら生きる力を高めることをめざします。

PLAの学習会

食育リーダー、PLAの食育講座

パルシステム東京の食育を広げるため、養成講座を修了した組合員講師「食育リーダー」「PLA（パルシステム・ライフ・アシスタント）」がさまざまな食育出前講座を開催しています。

食育リーダーの
食育講座

Report

おいしい！楽しい！家族で食育フェスタ

パルシステム東京食育リーダーとPLAの合同企画として「おいしい！楽しい！家族で食育フェスタ」を初開催。募集定員に対して3倍以上の申し込みがあるなど、組合員から高い関心が寄せられました。当日は29組69人の親子が参加し、五感をフルに使った食体験を通して、食の大切さを実感する一日となりました。（2/10）

①うま味（だし）体感、②パルシステム商品学習・試食、③簡単料理紹介、④子どもの食育、⑤稲の脱穀・籾すり体験の5つのブースを巡り、大人も子どもも飽きさせない工夫が好評でした。

「ほんもの実感！」商品の普及活動

「ほんもの実感！」くらしづくりアクション

組合員一人ひとりの「選ぶ」「買う」という行動が社会をつくっています。パルシステムがお届けする「ほんもの」の商品を選ぶことは、社会を変える力になります。
また、作り手と食べ手の距離を近づけるため、消費者である組合員が生産者やメーカーと直接ふれ合う機会を大切にしています。
パルシステム東京では組合員活動や産直講座などに生産者やメーカーを招き、多くの組合員が直接作り手のこだわりや商品づくりの背景などを学んでいます。

“選ぶで変わる”
ほんもの実感
くらしづくりアクション

Action1
「ほんもの」の価値を知り、一人ひとりが選択しよう！
Action2
「ほんもの」をつくる生産者・メーカーと会おう、話そう！
Action3
「ほんもの」をおいしくムダなく使いこなそう！

委員会企画を通じた普及活動

委員会活動は身近な地域やテーマごとに、組合員同士が学び合いながら地域にパルシステムを広げ仲間を増やす活動です。「ほんもの実感！」商品の普及活動にも多くの委員会が参加し、生産者やメーカーから直接学ぶ機会を創出しました。

パルシステム東京委員会活動「ほんもの実感！」関連企画	
企画数（委員研修含む）	414件
参加者数	のべ6,280人

Report

手軽に本格的な味を楽しもう『便利つゆ』&『素材がいきる白だし』学習会

（株）にんべん、（株）にんべんフーズより講師を迎え、しょうゆの味と、甘味が効いた「便利つゆ」と、だしのうま味を活かした「白だし」について学習。原材料の魚や昆布へのこだわり、味わいの違いを出すための工夫などについて聞きました。市販品との味比べでは、香りや味わいの差に、「ほんもの」を実感！（7/21 月島食育委員会）

独自のチラシ・カタログで情報発信

パルシステムが農薬と化学肥料の基準を独自に定めた、コア・フードとエコ・チャレンジ商品のみを特集したチラシを配付し、掲載商品においては買い上げ点数が向上しました。そのほか、毎月発行される「食べものナビゲーター」、組合員視点で編集された記事が好評の機関誌「わいわい」などの広報物を通して多角的な視点でパルシステム商品の魅力を発信しています。

コア・フードとエコ・チャレンジ商品特集チラシ

3. 食料自給率の向上をめざして

農作物輸入世界第1位の日本。食料自給率は先進国の中で最低水準となっています。
パルシステム東京はTPPに反対し、国産の食べものを大切にする取り組みを続けています。

米づくりの体験実習「お米の出前授業」

2017年度も教育機関からの要請に応え、お米の出前授業を行いました。バケツ稲などで日本人の主食であるお米の大切さを学ぶ出前授業を2011年度から継続実施しています。授業では、お米ができるまでを暦や代表的な産地の紹介とともに学習。今と昔、それぞれの生産者の知恵や工夫を学びます。

2017年度 出前授業を受講した児童数	
151校（のべ334回）	**10,807**人 （都内小学5年生の約1割）

苗植え実習

脱穀・籾すり実習

お米の出前授業で講師を務める職員より

毎日あたり前のように食べて、何気なく残してしまいがちなご飯・・・。お米の出前授業を通して、お米づくりの大変さや大切さを学び、“残さず食べる子!”になってもらえるような授業をめざしています。

パルシステム東京 商品・産直推進部
中島スタッフ

TPP反対運動

パルシステム東京は行き過ぎたグローバル化と自由貿易に反対し、利益より“いのち”を大切にした社会をめざしています。憲法が定める生存権や司法主権などを侵害するおそれのあるTPP交渉に対しても、問題点を組合員へ情報発信したほか、「TPP交渉差止・違憲訴訟の会」などとともに反対運動を展開しました。
また、「企業のためのグローバル化」に対抗する「ローカリゼーション」の実践とモデルを発信する「しあわせの経済 世界フォーラムin 東京」の運営委員会・実行委員会へ参画。2017年11月に開催の「しあわせの経済 世界フォーラムin 東京」では、パルシステム東京が共催した企画にのべ1,730人が参加しました。

野々山理事長がトークセッションに登壇（11/11、12）

産地交流

パルシステムでは「産直四原則」にもとづき、生産者と組合員、相互の交流を積極的に行っています。産直産地では、農作業体験や施設見学などを通じ産地に対する理解を深めています。
また、産地生産者を招いた料理教室や学習会、毎年3月には全国各地の生産者を招いた交流会を開催し、「顔の見える関係」を作り出しています。

産直四原則
①生産者・産地が明らかであること
②生産方法や出荷基準が明らかで
　生産の履歴がわかること
③環境保全型・資源循環型農業をめざしていること
④生産者や組合員相互の交流ができること

Report 1
新潟こしひかりの里de稲刈り体験

田植え、酒づくり、そば打ちなど通年でさまざまな交流を行う新潟県上越市。秋の稲刈り体験では、刈り取ったばかりの稲穂を伝統的な“はさがけ”で天日干しにしたほか、竹直生産組合の生産者とともに味噌作りにも精を出しました。（9/16、17）

Report 2
浜の母さん料理教室

ほたて・鮭・いくらなど北海道野付産の海の幸をふんだんに使って、野付漁協女性部の皆さんからとっておきの食べ方を教わりました。参加者からは「自分の手を使って殻をむいて味わったほたての味は忘れません」の感想が。（1/31）

公開確認会

「公開確認会」は、産直産地の農畜水産物の栽培・生産方法や安全性への取り組みを、組合員が直接確認するパルシステム独自の取り組みです。1999年にスタートし、開催数は2017年度末までに累計131回に上ります。2017年度はパルシステム東京主催で「農事組合法人トキワ養鶏公開確認会」を開催しました。

「こめたまご」飼料米の減農薬栽培や鶏ふん発酵堆肥の取り組みなどを帳票や視察で確認（9/21、22）

未来の社会のために、今の暮らしの中で、できることを。

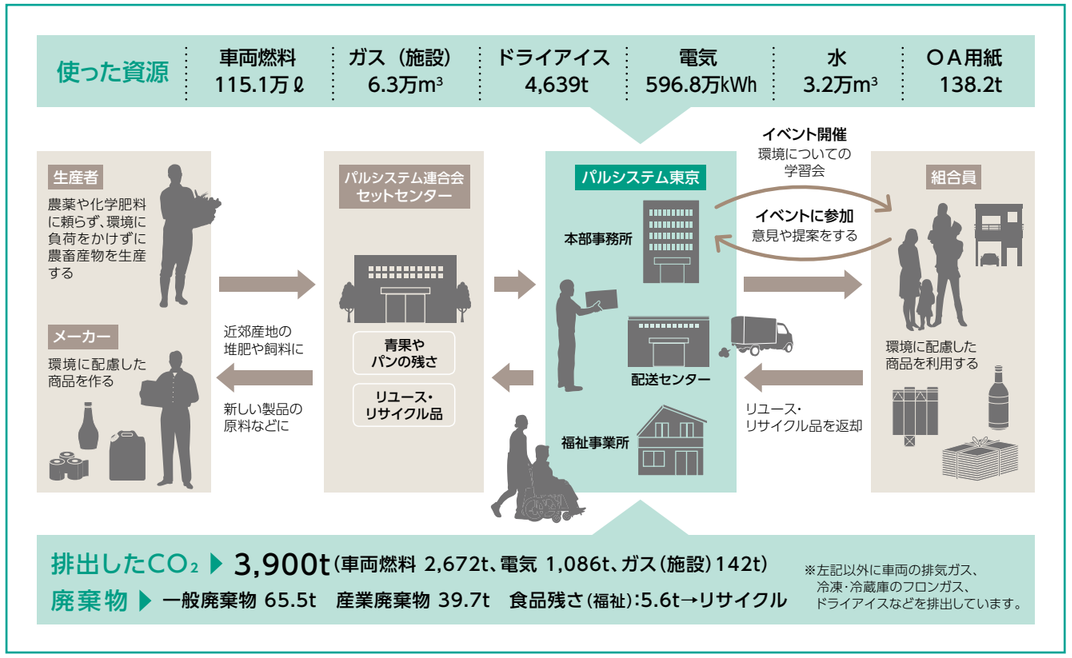
「環境」の取り組み

1. 地球温暖化を防ぐために

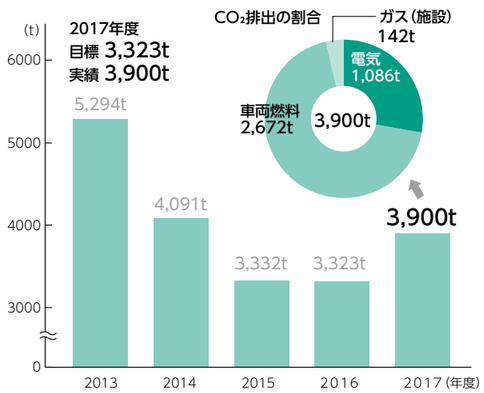
世界各地で地球温暖化が原因と見られる異常気象が頻発しています。
パルシステム東京は「地球温暖化対策の推進に関する法律」などに沿って、
再生可能エネルギーへの切り替えや省エネ設備の導入などの具体的なCO_2削減を進めます。

CO_2排出量の削減

2017年度は排出量を前年比100%（3,323t）以内に抑える目標を立てて取り組んだ結果、CO_2排出量は3,900t（前年比117.3% 577t増）となりました。



CO_2排出量の推移



2017年度は夏の平均気温が高く、冬場は積雪などもあり、各事業所の電気使用量が微増傾向でした。また足立センター新築工事なども増加に影響しました。電気の排出係数として用いる（株）パルシステム電力のCO_2実排出係数も前年度より高くなったため、CO_2排出量は509tだった前年度から1,086tと大幅に増加し、目標を達成できませんでした。
一方、組合員の増加に伴ってCO_2排出量の7割を占める車両燃料の使用量も増加しています。将来的には「パルシステムでんき」を使用したEV車両（電気自動車）トラックの導入をめざします。

ドライアイス不足のリスク低減

冷凍品の品温管理に欠かせないドライアイスは、宅配サービスの普及で需要が高まる一方で、ガソリン精製過程で発生する原料（高純度のCO_2）はエコカーの浸透などによって減少傾向にあります。夏場はとくに冬場と比べ3～4倍の使用量となり、ドライアイスの確保がひっ迫しています。
ドライアイス不足のリスクに備えるため、2017年度は青梅センターで冷凍商品蓄冷剤を導入し、専用冷凍庫を14台設置しました。今後、足立センターや昭島センター（2018年10月開設）などで導入予定です。

フィルター清掃後、専用冷凍庫で24時間凍結させて使用

省エネ対策

継続的に全事業所を対象としたEMS（環境マネジメントシステム）活動を実施しています。具体的には、全事業所での残業の抑制やこまめな消灯など、節電行動を徹底するほか、事業所と本部のエネルギー使用量を管理し、CO_2削減に貢献しています。
ハード面の対策として、計画的なLED照明への入れ替えを進めています。また、特定フロンガスR22を使用していた池尻センターの冷凍・冷蔵設備を、環境負荷の低い最新機種のR410Aに交換しました。

こまめなON/OFFが可能となるキャノピースイッチ付きのLED照明

2. 一人ひとりのくらし方を見直す

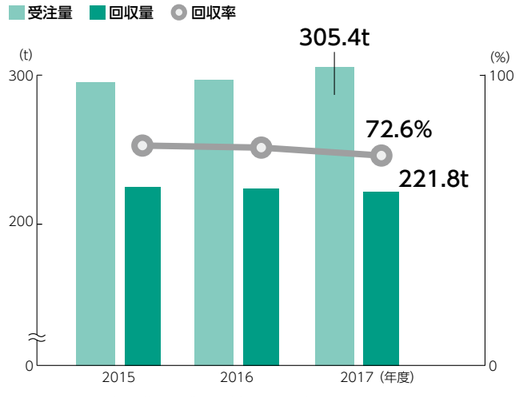
毎日なにげなく使う洗剤や、家庭から出されるゴミ…
一人ひとりのくらし方次第で、環境問題の多くを改善できる可能性があります。
パルシステム東京ではさまざまな機会を通して、くらしを見直す提案をしています。

3Rの取り組み

パルシステム東京は容器の軽量化や簡易包装、リユース・リサイクルできる容器への変更など、組合員や取引先の理解と協力を得ながら3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを長年継続しています。
また、新たな回収資源の認知度向上を図っているものの、お料理セットトレーは64.4%（前年度比94.2%）、米袋は36.3%（前年度比99.7%）と回収率は微減しました。

web動画「パルシステムの3R活動」

●紙パック 受注量・回収量と回収率の推移



トイレットペーパーなどの原料として認知され、回収率は70%以上をキープ

Report 1
那須野ヶ原小水力発電施設バス見学会

パルシステムでんきの発電産地の一つ「那須野ヶ原土地改良区連合」（栃木県）で小水力発電施設の見学と交流を行いました。同連合の星野恵美子さんからエネルギー開発に至った経緯などを学んだ後、農業用水路の2mほどの落差を活用した小型設備や、調整池から幹線用水路へと続く落差44mの専用水路に設置された最大出力500kWの設備を見学しました。（6/16）

Report 2
電力自由化学習会「エコな電気の選び方」

8月に行われた学習会ではNPO法人「太陽光発電所ネットワーク」の田中稔さんから、電力自由化の仕組みや地球温暖化による影響の説明に加えて、パルシステムでんきの料金改定やFIT電気（再生可能エネルギー）率が高い電源構成の特徴などをわかりやすく解説いただきました。（8/1～12/7、全7回開催）

Report 1
マスコー製紙株式会社の工場見学

静岡県富士宮市にあるマスコー製紙株式会社の工場見学を開催しました。組合員から回収された牛乳パックやABパック、注文用紙を「り・さいくりんぐシリーズ」の製品にリサイクルする工程を実際に見学し、担当者による説明や質疑応答を行いました。（6/22）

Report 2
3R学習会「海ごみと容器包装リサイクル法の役割」

容器包装の3Rを進める全国ネットワーク副運営委員長の中井八千代さんを招いて開催しました。ごみ処理やリサイクルの歴史からコスト問題、プラスチックによる海洋汚染問題など幅広い視点から、容器包装リサイクル法の現状について解説いただきました。（8/30）

石けんの利用普及と有害化学物質の削減

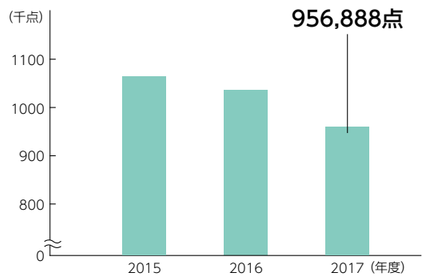
農薬や殺虫剤、合成界面活性剤など、身の回りにあふれる化学物質の中には、環境や人に悪影響を与えるものも多く含まれています。
家庭から排出される化学物質の約6割は、台所・洗濯用洗剤に含まれていることから、パルシステムグループは環境負荷の少ない石けんへの切り替えを組合員に提案しています。

石けんの利用普及

重曹、酸素系漂白剤、クエン酸などの石けん関連商品を、汚れ落としや掃除に活用する、自然派おそうじの学習会を継続的に開催。合成洗剤の問題点にも触れながら石けんの良さを広めています。組合員が開発に協力した石けん商品のラインアップも好評です。

組合員が開発協力してリニューアルした「やっぱり石けん!洗濯用粉石けん」は、粒状で溶けやすくなって利便性が向上

●石けんの供給実績



Report 1

知ってみようやってみよう 石けん学習会

東京都環境学習リーダーで染織家でもある、塩野圭子さんが講師の石けん学習会。汚れ落ちのしくみや、表示の見分け方などの説明のあと、石けんを使って実践。ピカピカになった水筒や、おしゃれ着洗いができるのを見た参加者たちからは「新品みたい!」「実践してみます」の声も。(6/22 八王子さくら食育委員会)

Report 2

エスケー石鹸工場見学会

大正7年創業で石けん一筋の老舗メーカー、エスケー石鹸株式会社の川口工場見学会を開催。同社の歴史や石けんと合成洗剤の違いなどを学習した後に、パルシステムのロングセラー石けん商品の「粉石けん水ばしょう」や「やっぱり石けん!洗濯用粉石けん」を製造する同工場の製造ラインを見学しました。「整理整頓が行き届き、清潔感と安心感を与えてくれた」との感想が。(6/30)

有害化学物質を知る

家具や日用品に含まれる化学物質を吸い続け、それらが蓄積していつのまにか微量の化学物質でも体に不調が出る「化学物質過敏症」。その患者数は国内で70万～100万人と推定されています。
パルシステム東京では、環境や健康に負担をかけないくらしを選ぶために、有害化学物質の削減のための学習会の開催や、情報の提供を行っています。

「化学物質過敏症」を取り上げたチラシ

Report 1

有害化学物質削減学習会「香害(こうがい)そのニオイから身を守るために」

ジャーナリストで元朝日新聞論説委員の岡田幹治さんは、体内に取り込まれる化学物質の80%以上は呼吸由来であることや、食品とともに体内に取り込まれた化学物質は肝臓などである程度解毒されるのに比べ、呼吸で入った場合は肺から血流にのり全身におよぶことを指摘。昨今の香りブームに潜むリスクについて警鐘を鳴らしました。(7/25)

Report 2

「プラスチック汚染の対策:化学汚染のない循環型社会を目指して」

東京農工大学教授の高田秀重さんを講師に連続学習会を開催。マイクロプラスチックによる世界的な海洋汚染、自然や人体への影響を踏まえ、世界各国で始まっているレジ袋やペットボトルの規制、予防対策例について解説いただきました。持続可能な"資源循環型社会"への転換の為に、「プラスチックをできるだけ減らす」ことが必要なことを学びました。(7/15、8/3)

くらしの中の省エネ

家庭の省エネ診断

東京都認定「家庭の省エネアドバイザー」の資格を持つ組合員アドバイザーを養成し、希望する組合員宅への訪問診断を通じて、各家庭に合った省エネアドバイスを行っています。「省エネ診断キット」を使って、一緒に検針票を見ながらエネルギー使用状況をチェックするほか、小型電力測定器やLED電球の貸し出しもしています。2017年度は38世帯の診断を行いました。

家電のヒヤリハットと省エネを学ぶ夏休み親子講座も開催(8/26)

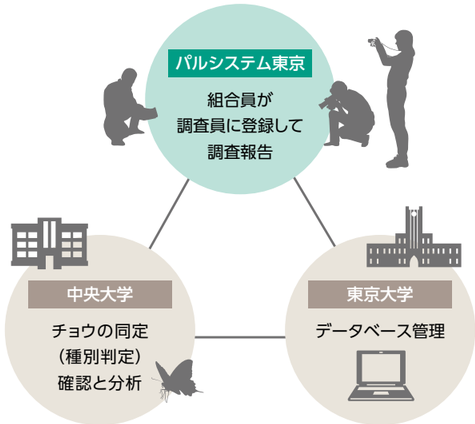
3. 身近な自然を守る

人々のくらしは多様な生き物が関わり合う、生態系からの恵みに支えられています。
生物多様性保全と、地球温暖化防止や有害化学物質の削減などの環境活動は、
深くつながっているという視点で、他団体とも連携した取り組みや学習の場を広げています。

生物多様性保全の取り組み

生き物モニタリング調査

都市部での生態系異変や気候変動に目を向ける機会を作り、生物多様性や人のくらしとのつながりを意識することで持続可能な社会をめざすことを目的としています。
「中央大学・東京大学・パルシステム東京協働プロジェクト」では毎年調査員を募集し、2009年度から2017年度までの9年間で、のべ952人が調査員となり、報告されたデータ数は38,263件となりました。
今後も市民参加の調査活動として継続的に実施し、生物多様性保全活動を維持します。



Report

生き物モニタリング調査キックオフ研修会

調査によってわかる生物多様性の現状や温暖化の影響、新しく導入された調査員専用アプリの操作方法などを学んだ後、東大駒場キャンパス内で1時間弱のモニタリング調査で実施。当日の炎天下にもかかわらず、花にとまるツマグロヒョウモンや、ミカンの葉にナミアゲハの幼虫、エノキの木にアカボシゴマダラの2㎜大の卵などを発見しました。(5/20)

在来種保護と外来種駆除

地域の生態系や日本特有の種を守るため、「侵略的外来種」駆除団体などと連携して駆除活動に協力しています。

Report

井の頭公園の池底を歩く「かいぼり、まるわかりツアー」

認定NPO法人生態工房から、池の生態系の復活や水質改善など、かいぼりについての説明を聞き、水を抜いた池底を探索しました。湧き水が出る所や、古いガラスびんを発見したり、前日までの雨でできたぬかるみに、ずぶっと足をとられる池底の感触を楽しみながら、体験学習をしました。(3/3)

東京の緑を守る

野鳥公園や皇居、高尾山をはじめとする山々など、東京都には多くの緑が残っています。
緑地についての解説を受けながら見てまわることで、森や草原の果たしている役割について理解を深め、緑を守る活動につなげます。

2017年度は世田谷区内の国分寺崖線の中でも豊かな自然や希少生物が残る地域を散策しながら、「成城みつ池を育てる会」が町や行政とともにすすめた保全活動も学ぶ企画を開催(3/13)

「いなぎめぐみの里山」保全

「農と緑の創生」をキーワードに2004年に開設した「いなぎめぐみの里山」では、毎年約3,000人の組合員が農業体験を中心に、里山体験や地域と連携した企画に参加しています。
パルシステム東京は2016年12月に東京ドーム半分強の広さに当たる約7,466坪の用地を取得。再開発で急速に緑が失われつつある中、地域を活性化し、豊かな自然を次世代に手渡すため、パルシステム東京は里山保全と活用のモデルを構築していきます。

3月には里山の山林部の一部が稲城市「自然環境保護地域」に指定

Report

森林保全と健康づくり～竹の伐採&ミニ門松づくり～

コープ共済連健康づくり支援企画として適度な運動による健康づくりと里山保全を兼ねたイベントを企画。認定NPO法人 JUON(樹恩) NETWORKから3名の講師を招いて、グループに分かれて協力して竹の伐採を行い、切り出した竹を短く切って組み合わせて形を整え、松の葉や梅の花などの飾り物を添えて、小さな門松が完成しました。(12/2)

「いなぎめぐみの里山」の一年間

春（4～6月）
里山の散策　たけのこ掘り
さつまいもの植え付け　梅もぎ
梅ジュース作り
じゃがいもの収穫

夏（7～9月）
麦茶作り
秋野菜の種まき

秋（10～12月）
落花生・さつまいもの収穫
さといもの収穫といも煮会
クリスマスリース作り（年間会員）
正月飾り作り

冬（1～3月）
落ち葉掃きと焼きいも
じゃがいもの植え付け
春野菜の種まき

組合員一人ひとりの思いが地域の笑顔につながる。

「人」の取り組み

1. 地域とつながる

地域のつながりが薄れる中で、組合員活動の広がりは貴重な存在です。
人と人とがつながり、ネットワークが生まれ、地域の活性化につながることを期待し、
パルシステム東京は組合員の活動をさまざまな方法で支援しています。
また、継続的な市民団体とのつながりから、新しい可能性が生まれています。

地域で広がる活動

委員会活動

パルシステム東京の組合員活動は身近な地域やテーマごとに組合員同士が学び合う委員会活動を中心に、さまざまな活動をしています。
食の安全や環境をテーマにしたものから、くらしを豊かにする文化的活動まで、身近な地域でさまざまな活動に多くの組合員が参加しています。

パルシステム東京の委員会活動（2018年3月末時点）	
委員会数	178委員会
企画数	911件
参加組合員	のべ13,838人

Report 1

「みんなでゆかたを着よう。」

盆踊りや花火大会の季節を前に、浴衣を自分で着たことのない初心者や、娘に着付けたいという参加者などが集まりました。粋に見える襟の開け方の角度や合わせなど講師のワンポイントに、「勉強になった」「来年も参加したい」と終始楽しい空気が流れていました。
（6/19 のびのび下町っ子委員会）

Report 2

子どもを守る！ママ・パパのための防災講座

「高い位置で固定しておんぶすると、重心が上になり軽く感じる」など、アウトドアの知識を駆使した避難時の心掛けを学びました。日本人の体形に合う、さらしを使ったおんぶひもを体験した参加者からは「こんなに軽いんだー」と驚きの声。パパたちの参加も多く、熱心にメモをとる姿がみられました。
（6/25 子育てコアラ委員会）

Report 3

「色よし・味よし・香りよし」を実感！金庄 石焼きのり工場見学

江戸前のりについて知識を深めようと、石焼きのりメーカー(株)金庄を見学。東京湾三番瀬で養殖している江戸前のりの現状などを聞きました。日本で唯一という、天日干しの味わいを感じる石焼き釜を見学し、焼く前と後の味を比較。焼き立てののりを口に含むと、磯の香りが広がりました。
（10/20 田園調布委員会）

Report 4

あると重宝！キッチンハーブ寄せ植え講習会

料理がおいしくなるタイムやローズマリーなどのキッチンハーブ。寄せ植えと、手入れの方法や増やし方を学びました。「帰ったらたっぷりの水を。乾くことで根が伸びるので、次の水は土の表面が乾いてから」など随所に手入れのポイントが盛り込まれ、大満足の講習会となりました。
（11/8 町田中央委員会）

市民活動助成基金

組合員が商品やサービスを利用することで生まれた剰余金をもとに、誰もが安心して暮らしていける社会づくりをめざして活動している、草の根の市民団体を資金面で支援しています。また、団体間連携など助成終了後の連携づくりも進めました。助成を通して、団体が取り組んでいる顕在化していない社会課題について組合員や社会の認知を広げることにもつながっています。

市民活動助成基金　実績	
2017年度	**14**団体 約**454**万円
1998～2017年度（累計）	のべ**233**団体 約**9,168**万円

2017年度 市民活動助成基金助成団体の紹介

特定非営利活動法人 たしざん

地域で、障がいがあっても心豊かに暮らすための就労支援事業、グループホーム等の設立をめざす団体。用地の問題から現状では自主事業を選択、原材料の一部にパルシステム商品を使ったパンの製造販売を行う。

NPO法人 視覚障がい者ネットワーク コトリナ

視覚障がい者と晴眼者とが共に活動し、自分らしく生き生きと暮らすための居場所を病院外につくることを目的に設立。サロン活動、相談支援、リハビリテーションに取り組む。

たすけあい活動助成金

パルシステム共済生活協同組合連合会では、保障事業で生まれた剰余の一部を、よりよい地域社会の構築に向けて、組合員が自主的に行う子育て支援や福祉助け合い活動、ライフプランニング活動、健康維持活動などへの助成金として活用しています。パルシステム東京は、地域の担い手づくりや居場所づくり、ピンクリボン運動、パルシステム東京映画祭などで助成金を活用した取り組みを行っています。

Report

パルシステム東京映画祭

パルシステム東京映画祭では、「食べもの」「地球環境」「人」というパルシステム東京の理念を示す3つのキーワードにつながる映画を3本上映しました。鑑賞後の参加者からは「戦争という同じ過ちを二度と繰り返してはいけないと思った」「居場所を運営する人、集う人の思いに涙がこぼれた」などの感想が寄せられました。（2/3）

フードバンク狛江と連携して「フードドライブ」を実施。136kgの食品を回収

3本の映画上映にのべ930人が来場

ホールでは関連団体の展示販売なども

地域福祉推進の取り組み

団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になる、いわゆる「2025年問題」が迫っています。
パルシステム東京は、小さな子どもから高齢者まで誰もが安心して、自分らしいくらしを続けていくことができるように、地域ごとの福祉課題に取り組む「地域福祉」を推進しています。

認知症への理解と啓発の推進

地域で高齢者を支える担い手を育成し、地域での見守りの輪を広げるため、認知症サポーター養成講座を組合員や地域住民、職員向けに実施しています。2017年度は47人のサポーターを養成しました。

認知症を支援する目印、オレンジリング

昼食時間を活用した講座にも新宿本部職員7名が自発的に参加。高齢社会における関心の高さが感じられた（3/23）

居場所づくり支援

地域団体や行政・社協などと連携した居場所づくり支援を行っています。
パルシステム東京組合員が担い手として参加している世田谷区住民主体型地域デイサービス「あじさいの家」は、地域の担い手メンバーが食事提供やレクリエーション活動などの運営を行っており、組合員が居場所や集いの場を運営する支援プログラムのモデルケースとなっています。
また2017年度は、居場所や集いの場を運営したいと思っている組合員を対象にランチワーク等を盛り込んだ実践ワークを2回連続で実施しました。

毎週開催の世田谷区住民主体型地域デイサービス「あじさいの家」は、2018年3月までの開催で通算72回に

地域福祉を学ぶ

地域の人々のたすけあいや支えあいが社会に浸透していくために、地域福祉を学ぶ機会をつくっています。1月にはパルシステム共済連とパルシステム連合会が主催する「インフォーマルサービス（※）シンポジウム2018」にパネリストとして参加し、組合員グループ主体で運営する地域デイサービスが、担う側・利用者双方の居場所となり、行政・組合員・地域包括支援センターとの地域連携事例となっていることを報告しました。

※介護保険等の公的に提供されるもの以外のサービス。地域住民やNPO、民間企業などが提供する生活支援サービスなど。

「子ども食堂」「多世代が集う居場所づくり」など地域福祉を学ぶグループワークの様子

2. 平和なくらしを守るために

平和で公正な社会の実現に向けて、2014年に「パルシステム東京 平和政策」を策定しました。
「平和な共生の世界をめざします」「一人ひとりが尊重され、いのちを大切にする社会づくりをすすめます」
「次世代が希望をもてる地域をつくります」を基本に、平和活動を続けています。

核兵器廃絶運動

ヒバクシャ国際署名

核兵器を禁止・廃絶する条約を結ぶことを全ての国に求める「ヒバクシャ国際署名」に他団体とともに取り組みました。署名は署名集約団体の日本生協連を通じて国連へ提出しました。

ヒバクシャ国際署名　実績	
パルシステム東京	**41,685**筆
パルシステムグループ（11生協）	**181,208**筆
全国生協（175生協）	**982,204**筆

ヒバクシャ国際署名キャンペーンリーダーの林田光弘さんらを講師にキックオフ学習会を開催（6/24）

国際連帯

平和カンパ、書き損じハガキ等の回収キャンペーン

紛争や難病、飢餓などの厳しい状況にある世界の子どもたちへの支援として、「平和カンパ」「書き損じハガキ等の回収キャンペーン」に取り組んでいます。
1月には「ロヒンギャ難民緊急支援」として、3団体に計120万円の組織カンパによる支援を実施しました。

平和カンパ　実績	
2017年度	**7**団体 約**843**万円
1996～2017年度（累計）	約**1億5,027**万円

回収キャンペーン　実績（換金額）	
2017年度	**2**団体 約**1,234**万円

児童労働反対運動

「ストップ! 児童労働キャンペーン2017」（児童労働ネットワーク）に賛同し、組合員へ参加を呼びかけました。
6月には理事会有志が「Red Card to Child Labour」カードをかざした写真を、レッドカードアクションのホームページに投稿し、児童労働反対を訴えました。

平和について学ぶ活動

平和スタディツアー

被爆や戦争体験の継承と平和な世界の創造に向け、若い世代に平和活動を広げることを目的とし、2017年度もヒロシマ・ナガサキ平和スタディツアー、沖縄戦跡・基地めぐり（日本生協連・各県生協連企画）に参加しました。
ヒロシマ・ナガサキでは被爆者の証言、市内原爆遺構めぐりなどを通じて原爆被害の実相や、核兵器の非人道性などについて、沖縄では講演会やフィールドワークを通じて沖縄戦の歴史と米軍基地問題について学びました。

長崎の平和祈念像の前にて（8/7）

平和学習会

組合員一人ひとりが自分のこととして、学び・考え・行動することが、平和な社会へ向けた一歩になると考えて、平和学習会を継続して開催しています。
2017年度は6月に「憲法」、2月に「沖縄の歴史と基地問題」をテーマに講演会を開催しました。

講演と映画上映で沖縄の基地問題を考える学習会を開催（2/18）

ピースフェス

平和への想いを共有するピースフェスを毎年開催しています。
2017年度は「遠い存在?『紛争下の子どもたち』と日本にくらす『わたし』」と題して、紛争・貧困地の子どもたちの取材を続けるフォトジャーナリストの安田菜津紀さんと、国際支援の現場での駐在を経てNGO代表を務める日本国際ボランティアセンターの谷山博史さんによるトークセッションを開催。
続けて「ヒロシマ・ナガサキ平和スタディツアー」「沖縄戦跡・基地めぐり」参加者からの報告などを聞くほか、国際協力NGO4団体によるワークショップなども開催し、世界の国々の文化や現状を感じとる一日となりました。
（9/2）

世界の紛争、難民問題を考えるトークセッション

NGO団体によるフェアトレード商品などの販売

ピースカフェ

ピースカフェは「平和カンパ」などで関わりのある国際協力NGO団体などによる、組合員向けの出前講座です。紛争や飢餓、難民問題などを抱える国の現状を聞き、その国の料理を一緒に作ったり、民芸品や刺繍の手作り体験を交えたりしながら国際協力への理解を深めます。
2017年度は19委員会が「ピースカフェ」を、3委員会が都内の施設を訪れて平和を学ぶ「おでかけピースカフェ」を開催しました。

「カカオからつくる手作りチョコレートワークショップ」
（11/24 北A委員会／特定非営利活動法人APLA（あぷら））

3. 被災地の復興を支援する

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から7年。
パルシステム東京は「3.11を忘れない」を基本視点に、福島支援カンパや親子保養企画、子どもの甲状腺検診などに取り組むほか、被災地の現状を学ぶスタディツアー、シンポジウムなどを継続的に実施しています。
また、日本や世界各地で発生する災害による被災者への支援カンパも随時行っています。

被災地のいまを知る

東日本大震災復興支援シンポジウム

「3.11を忘れない」をキーワードに東日本大震災復興支援シンポジウムを毎年開催しています。6回目となる2017年度は「震災から7年　伝えよう、あの日のこと　応援しよう、震災後のふくしま」と題し、フリーアナウンサー・大和田新さん（元ラジオ福島アナウンサー）を招き、発災直後からの被災現場レポートや現在の福島の様子についてお話しいただきました。

講師の大和田新さん

「福島支援カンパ」贈呈先団体によるパネルディスカッションも実施

Report 1

福島スタディツアー

1日目は世界基準省エネ住宅「パルシステム福島みんなの交流館」、福島支援カンパ贈呈団体「いわき放射能市民測定室たらちね」を見学。また、相馬双葉漁協組合長と福島県水産試験場相馬支場長から、福島県の漁協の現状を学びました。
2日目は相馬市、被災した相双漁場、伝承鎮魂記念館、細田災害公営住宅、防災備蓄倉庫などを見学。「楢葉まなび館」では、持参した古着でミニわらじ作り体験をしながら帰還した楢葉町の人々と交流を深めました。（11/2～3）

Report 2

福島親子歓迎企画

福島の子どもたちの保養を目的とした「パルシステム福島親子歓迎企画」を開催。8回目となる今回は「いなぎめぐみの里山」での交流企画にパルシステム東京の組合員ボランティアが昼食準備や会場設営に携わり運営をお手伝い。焼き芋大会や落ち葉のプールでのターザンごっこなどを通じて、東京と福島の組合員が交流を温めました。（3/24～26）

被災地を支援する

古Tシャツの寄付と布ぞうり販売

福島県楢葉町からの避難者が中心となって立ち上げた手作り布ぞうりブランド「narahato」。2017年度の福島スタディツアーでの交流をきっかけに、1月に布ぞうりの材料となる古Tシャツの寄付の呼びかけと、3月に布ぞうりの販売を実施しました。

スタディツアーに参加した職員による府中・大田センター限定企画

古Tシャツ寄付および布ぞうり受注数　実績	
古Tシャツの寄付	2,390枚
応援メッセージ	149通
布ぞうり受注数	523足

震災復興支援基金「パル未来花基金（ミライカ）」

組合員による東日本大震災の復興支援活動を資金面で支援する制度です。
パルシステム東京組合員が代表の3人以上のグループに、年度最大50万円を助成します。

パル未来花基金　実績	
2017年度	16団体 400万円
2014～2017年度（累計）	のべ57団体 約1,472万円

助成グループ「福島こども支援・八王子」の保養合宿での様子

支援カンパ

2012年度から福島の子どもたちを放射能から守る市民団体を支援する「福島支援カンパ」を実施しています。
1月には「FoE Japan福島ぽかぽかプロジェクト」へ40万円の組織カンパによる支援を実施しました。
また、各地で起きる異常災害などによる被災者に対し、迅速に情報を入手し、必要な組織支援を進めています。2017年度は福岡、大分両県を中心に発生した豪雨被害を受けて、緊急カンパにパルシステムグループ全体で取り組みました。

福島支援カンパ　実績	
2017年度	6団体 約927万円
2012～2017年度（累計）	約5,567万円

九州北部豪雨緊急支援募金　実績	
パルシステム東京	約2,554万円
パルシステム（全体）	約7,865万円

子どもの甲状腺検診

2017年12月、福島支援カンパ贈呈先団体「いわき放射能市民測定室たらちね」の協力を得て、組合員と福島からの避難者の子どもを対象にした「子どもの甲状腺検診」を都内4会場で実施し、189人が受診しました。
また、「子どもの甲状腺検診」に先がけてキックオフ学習会を開催し、放射能の影響や甲状腺検診への理解を深めました。

甲状腺検診の様子

働く環境づくり・人材育成

マイスター制度の導入

職員（社員）のモチベーションを高め、さらに組合員対応を向上させることを目的とし、2017年8月よりマイスター制度を導入しました。6つの専門性において基準を満たした優秀な職員（社員）へ認証ピンバッジを授与し、功績を讃えました。

分野	安全運転	配達	仲間づくり	100ミリオン	保障	食べもの
ピンバッジ						

制度改善

これまで正規職員の退職金制度は、在職期間の貢献度が同じ場合でも、入協時の年齢の違いによって金額に差異が生じるなど、運用上いくつかの課題が出てきていました。これらの課題を解消することを目的に「ポイント方式」による退職金制度へ移行し、貢献度に応じた退職金となるよう、制度改善を行いました。
また、定時職員については、これまでの60歳定年を福祉職に合わせ65歳定年に引き上げるとともに、有期契約にて入協後、最初に契約更新をする時点から無期契約に転換することとし、安心して働ける環境を整えました。

「くるみん」を取得・更新

「一般事業主行動計画」を策定し、少子化対策を図り子育て支援など一定の基準を満たした企業や法人などが厚生労働省によって認定される「くるみん」マークを取得しています。

※パルシステム東京のホームページでも「一般事業主行動計画」、「女性活躍推進法に関する一般事業主行動計画」を公表

女性職員を中心としたチーム編成

女性の配達担当の配送負荷軽減を目的として「女性専用コース」を新たに設け、女性比率を高めた人事配置を3つの配送センターで行いました。組合員からの評価も良く、事業運営の改善が組合員サービスの向上にもつながりました。今後も他のセンターに拡充していきます。

2017年度の職員数
- ●パルシステム東京正規職員398人のうち、女性職員は44人
  女性管理職は1人（2018年3月末現在）
- ●2017年度新卒採用14人のうち、女性採用は8人（57.1%）

教育・研修プログラム

パルシステム東京の理念・ビジョンの浸透を図り、日常の業務に活かすためにさまざまなプログラムを行っています。

産地研修・パルカレッジ

2017年度もパルシステム東京独自の産地研修に役職員および委託協力会社社員が参加し、青森、秋田、新潟、千葉、茨城、埼玉、神奈川の7県8産地で研修を実施。のべ293人が参加しました。
また、職員の階層ごとに習得すべき知識だけでなく、生協の基礎から経営管理、商品知識を学ぶパルカレッジを多彩な内容で展開しています。パルシステム東京からは、のべ474人が参加しました。

秋田南部圏での除草作業の様子

障がい者雇用

障がいのある職員が、配送センター、陽だまり、本部内でさまざまな業務を行っています。入協前に、職場体験実習や就職を見据えた実習などを行い、仕事のイメージや職場環境を体験した上で採用。2017年度は本人を交えて、ご家族や関係者同士の交流会を行いました。2017年度の障がい者雇用実績は416人（年間のべ人数）、2017年度の法定雇用率2.0%をクリアしています。（2017年度実績3.3%）

障がい者雇用人数			
年度	2015	2016	2017
人数	376	395	416

業務の幅も広がり、さまざまな職場で戦力として活躍し、なくてはならない存在となっている

労働安全衛生の取り組み

安全で働きやすい職場環境を作るため、各事業所で月1回の「安全衛生委員会」を開催。リスクアセスメントや4S（整理・整頓・清掃・清潔）、産業医による職場巡回などの実施により、健康管理および労働災害防止のための改善に努めています。

メンタルヘルスに関する取り組み

職員のメンタルヘルスや健康についてのさまざまな相談に、産業カウンセラーと看護師資格を有する産業保健スタッフが対応。専門性を活かし、職員の心と体の健康管理を支えています。

リスクマネジメント

内部統制システムの推進

組合員と社会に信頼される健全な組織体制を整備するために、「内部統制システム基本方針（組織体制の整備と運用を効率的に行うために必要な基本方針）」（2009年12月制定、2015年3月改定）に基づき取り組んでいます。

内部統制システム基本方針の検討

毎年定期的に ①機関設計の見直し ②法改正 ③生協業界の動向 ④業務内容の大幅な変更 ⑤その他事項の項目にそって検討を行っています。

リスクマネジメントシステムの推進

組織の事業活動の中で想定されるリスクを洗い出し、そのリスクに対するマニュアルや規程類の確認を行いました。その上で組織全体で重要度の高いリスクに対しての対策や計画を策定しています。

財務報告の信頼性確保

財務報告の信頼性確保はもとより、業務の効率化および「仕事の見える化」を推進するため、決算における業務処理、作業もれを点検するチェックリストの運用を行っています。

内部監査の専門性・信頼性

日本内部監査協会の認定資格である内部監査士の資格を取得した職員が、内部監査の専門性・信頼性の確保のために研修受講などにより、監査能力の向上に努めています。

子会社における内部統制

子会社における財務報告の信頼性確保だけではなく内部管理体制のさらなる強化をめざし、子会社と一体の内部統制を推進しています。

コンプライアンスの推進

法令・内部規則だけでなく、倫理面でも組合員・社会の期待に応えられる行動や判断を行うための指針として行動規範を定めています。

行動規範カード

「パルシステム東京行動規範」の本文を掲載した「行動規範カード」を役職員は常に携帯します。カードには「行動規範」のほか、「コンプライアンス相談窓口連絡先」「こころとからだの健康相談窓口」「交通事故発生時の対応」「災害発生時の安否連絡手段」などを掲載しています。

相談窓口（ヘルプライン）

職員からの相談案件に対応するほか、違反行為の防止や、迅速な是正を目的に設置しました。

コンプライアンス委員会

専務理事のもとに設置され、常勤理事および執行役員並びに2人の外部有識者で構成。特に外部有識委員（弁護士、コンプライアンス専門家）の意見・具申は、効果的な牽制機能となっています。

pal*system SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

第1回「ジャパンSDGsアワード」受賞！ 持続可能な社会づくりをめざす活動に評価

組合員の“選ぶ”でつくる社会づくりが評価

2015年に国連で採択されたSDGs（※）の達成に向けて、優れた取り組みを行う企業・団体等を表彰するために日本政府が新設した「ジャパンSDGsアワード」で、パルシステムの「ほんもの実感！くらしづくりアクション」がSDGs推進副本部長（官房長官）賞を受賞しました。

※SDGs（持続可能な開発目標）：2015年に国連サミットで採択された2030年までの国際目標。持続可能な世界を実現するための17のゴール、169のターゲットで構成され「地球上の誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

アワード授賞式での様子（2017/12/26 総理大臣官邸）

生協としてパルシステムに寄せられる期待

2018年1月20日に開催された報告会では、アワード事務局の外務省・地球規模課題総括課長の甲木浩太郎さんから、パルシステムの商品について「地域、環境、生産者、女性と結びついており、SDGsが目標に掲げる貧困や環境といった17の課題解決をつなげ、統合的に取り組んでいる」と講評をいただきました。

また、SDGsに詳しい朝日新聞社の報道部記者・北郷美由紀さんからは「ボードメンバーの女性比率の高さなど、日本が世界に遅れをとっているジェンダー平等の実現に貢献している。今後は、若者をどう巻き込むかに注目したい」と期待が寄せられました。

若手職員も参加するスピーカー養成研修の様子

SDGsに照らした活動の例

12 つくる責任 つかう責任

効率最優先ではない、人や環境に配慮した「ほんもの」の商品を作っています。

●産直産地で持続可能な生産をされた「産直原料を生かした商品づくり」

●食べ物をムダなく使いこなす商品づくり

市販品は45%廃棄

13 気候変動に具体的な対策を

リユース・リサイクルを進め、CO_2削減に取り組んでいます。

●できる限りパルシステムで循環する仕組みづくり

回収した牛乳パック類をトイレットペーパーに再生

●プラスチックトレーを削減

不要なトレーを削減したパッケージに

13 気候変動に具体的な対策を　14 海の豊かさを守ろう

サンゴ礁の“里海”を守り、育む活動をしています。

「恩納村もずく」などの利用代金の一部をサンゴの植え付けに役立てています。植え付けたサンゴが産卵することで海の生態系が育まれます。

15 陸の豊かさも守ろう

生物多様性を生かす農法で、いのちあふれる田んぼに。

産直産地では化学合成農薬や化学肥料にできるだけ頼らず、堆肥や有機質肥料による土づくり、人力での除草など環境保全型農業に取り組んでいます。

JAみどりの（宮城県）圏内の田んぼに降り立つマガン

詳しくは パルシステム　SDGs 検索

「パルシステムSDGsレポート」をWEBで公開中▶

生活協同組合

パルシステム東京 http://www.palsystem-tokyo.coop/

本部事務所		〒169-8526	新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿 TEL 03-6233-7600(代)　FAX 03-3232-2581 Eメール palsystem-tokyo@pal.or.jp
配送センター	江戸川センター	〒132-0025	江戸川区松江2-10-18
	江東センター	〒136-0076	江東区南砂2-36-1
	足立センター	〒121-0011	足立区中央本町4-3-7
	港センター	〒108-0075	港区港南5-5-12
	大田センター	〒146-0081	大田区仲池上1-31-1
	板橋センター	〒174-0041	板橋区舟渡3-20-28
	池尻センター	〒154-0001	世田谷区池尻2-23-4
	練馬センター	〒179-0073	練馬区田柄4-38-5
	世田谷センター	〒157-0061	世田谷区北烏山7-21-11
	狛江センター	〒201-0003	狛江市和泉本町4-5-24
	三鷹センター	〒181-0013	三鷹市下連雀6-15-18
	府中センター	〒183-0052	府中市新町2-29-4
	東村山センター	〒189-0011	東村山市恩多町1-10-1
	多摩センター	〒206-0032	多摩市南野1-2-5
	立川センター	〒190-0034	立川市西砂町6-16-7
	八王子センター	〒192-0033	八王子市高倉町4-7
	青梅センター	〒198-0024	青梅市新町3-11-1
福祉事業所	●● 江戸川陽だまり	〒132-0025	江戸川区松江2-10-18
	● 辰巳陽だまり	〒135-0053	江東区辰巳1-2-9-101
	●● 辰巳陽だまり	〒135-0053	江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル3F
	● 東雲陽だまり	〒135-0062	江東区東雲2-4-3-106
	● 足立陽だまり	〒121-0011	足立区中央本町4-3-23 2F
	●● 八潮陽だまり	〒140-0003	品川区八潮5-2-2 八潮ビル2・3F
	●●● 中野陽だまり	〒164-0003	中野区東中野4-7-9
	●●● 第2中野陽だまり	〒164-0003	中野区東中野1-4-10
	● 中野中央陽だまり	〒164-0011	中野区中央5-41-18 東京都生協連会館5F
	●● 上町陽だまり	〒154-0017	世田谷区世田谷2-8-2
	●● 狛江陽だまり	〒201-0003	狛江市和泉本町4-5-24
	●● 府中陽だまり	〒183-0054	府中市幸町2-13-29
	●● 府中陽だまり	〒183-0054	府中市幸町2-13-30
	●● 東村山陽だまり	〒189-0011	東村山市恩多町1-10-1
	● 愛宕陽だまり	〒206-0041	多摩市愛宕3-2 愛宕かえで館1F
	福祉用具サービス 陽だまり	〒169-8526	新宿区大久保2-2-6 ラクアス東新宿
保育園	ぱる★キッズ府中	〒183-0054	府中市幸町2-13-29
	ぱる★キッズ足立	〒121-0011	足立区中央本町4-3-23 1F
関連施設	パルひろば辰巳	〒135-0053	江東区辰巳1-1-34 辰巳ビル2F
	パルひろば足立	〒121-0011	足立区中央本町4-3-23 3F
	パルひろば下馬	〒154-0002	世田谷区下馬4-13-6

●デイサービスセンター
●ホームヘルプサービス
●ケアマネジメントサービス
●認知症対応型デイサービスセンター
●認知症対応型グループホーム

発行　生活協同組合パルシステム東京 広報室
2018.07